

## 国際協力の在り方議論

有識者  
会議



東北誘致

【東京支社】文部科学省の国際リニアコライダー(ILC)に関する第10回  
有識者会議(座長・平野眞  
一元名古屋大総長)は19日、  
同省で開かれた。国際協力

の在り方などを議論し、次回会議では意見のとりまとめを行う。

委員11人が出席。同省担当者がILC計画に関するフランスやドイツの政府担当者らと3、5月に行った意見交換について説明した。同省によると、フランスは「大規模プロジェクトの意思決定は科学的優先度、

財政課題などの考慮が必要」とし、ILCについて「(延長31<sup>キ</sup>から20<sup>キ</sup>に短縮にした)計画見直し後の施設ではヒッグス粒子の精密測定を鮮明にできる」との認識を示した。ドイツは「研究者には計画見直しで可能性が制限され、本当に新しい物理が開けるか慎重な意見がある」と説明した。

委員からは「計画見直し後の科学的意義を各国にきちんと説明する必要がある」との声や「日本の過大な経費負担は厳しい。経費面の国際分担について各国政府の考えを深く探るべきだ」などの意見が出た。平野座長は「これまでの意見を踏まえ、次回にまとめの議論をしたい」と述べた。

前回会議で示された経済波及効果について野村総研は2兆3776億〜2兆6109億円に見直したことを報告した。建設期間の運営費を再検討した。